



〔不適切な養育(チャイルド・マルトリートメント)を考える〕
 ～助けてあげたい苦しんでいる子どもたちがいます～

心とは
 心は こわれるもの
 だから いつも育み続けるものなの
 心は ほころぶもの
 だから いつも繕(つくろ)うものなの

心は ふれあいと見まもり いたわりとはげましに支えられ
 心は いつも慈しみあふれるところで やさしさと思いやりが生れ
 創られるところなの

過日、私たち(社福)童心会において「気になる子」の研修会を行いました。
 「気になる子」とは最近、特に増えている「発達障害や愛着障害」の子たちのことを言うのですが、
 新しい科学を取り入れた保育の考え方は次のようになりました。
 「子どもの脳を傷つける親たち」友田明美・NHK出版新書の中で
 不適切な養育(チャイルド・マルトリートメント)が子どもの脳を変形させると言っています。

「虐待」という言葉が持つ響きは強烈で、ときにその本質を失うおそれがあるため
 最近の小児精神科の世界では不適切な関わり方をマル・トリートメントと呼んでいるのだそうです。
 言葉による脅し、ののしり、無視、放っておくなどの行為、
 子どもの前での夫婦ケンカもマル・トリートメントと見なします。
 1990年代にとある大学で横浜の地域の子育てについてアンケート調査をしたことがありました。
 「子どもをたたくとしたら、どこをたたきますか？」という設問に対して
 90%以上の人が「たたく」と答えたそうです。



笑ったかす一番 だっこされたかす一番 やさしくされたかす一番
 遊んだかす一番 でかけたかす一番 チャレンジしたかす一番



E-mail doushinkai@doushinkai.jp URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939
 FAX 04-7172-3901

社会福祉法人 童心会

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1
 理事長 中山 勲



「たたかないで寝ることなどできるのですか？」と聞いてくる方もいたそうです。友田先生も「日々子どもと接する中でこうしたマル・トリートメントがまったくないという家庭など存在しないでしょう」とまで断言しています。

昨今、「愛着障害」という言葉を耳にする機会が増えました。

この「愛着」という概念は、英語では「attachment(アタッチメント)」といい、

「子どもの特定の母性的養育者(父親も含む)との間に形成される、強い結びつき」を指します。

つまり親子、養育者と子ども、童心会の保育者仲間と親子関係などの根幹をなす関係のことです。子どもは養育者の腕に抱かれ、見つめあい、微笑みあうことで安心感、信頼感を身体で覚えていくものです。

この「愛着」の感覚が健やかに育つことで、

子どもは成長と共に、少しずつ外の世界へ踏み出していけるのです。

親や養育者に愛されているという自信と安心感さえあれば、健康にこころの成長を遂げていきます。

私は今回の研修ではとつても大きな収穫を得ることができました。参加したある保育者仲間の一人が、自分の子育てをふり返って次のように子どもにお話したそうです。

「子どもが小さい頃、自分の関わり方がマル・トリートメントだったのと、童心会で働いてから思うようになった。最近、子どもに「小さい頃は寂しい思いをさせていたね。ごめんね」と謝る機会があった。自分から自然とその言葉が出たことにも驚いたが、日々先生たちから学んでいるから言えたのだと思う。柏中央保育園の先生たちは、自然とDaily workを実践していて本当にすごいと思う。治療施設として、保育園でたくさんの愛情をもらい、子どもたちが笑顔になることで、保護者の方も笑顔になり、幸せにたくさんつながればいいなと思う。」

私はこれを読んで改めて考えさせられました。

最近のある小児神経科医がいう

「日々子どもと接する中で、こうしたマル・トリートメントがまったくない家庭など存在しないでしょう」という言葉を改めて見つめ返すと、私たちの新しい役割を保育園の中に見つけることができたのです。

「助けてあげたい、苦しんでいる子どもたちがいます！

私たちが救わなければならない、子どもたちがたくさんいるのです！」

日本の保育・日本の乳幼児教育は変わらなければなりません。

(社福)童心会が実践してきた訓え、「人間学に基づく人間教育」を見つめ直し、人の成り立ち・心の成り立ちを考え、レジリエンス(resilience)「回復力、立ち直る力(賢い智慧)、折れない心」を育むことだ、と思っています。

〔立ち直る力(賢い智慧)〕

1. 五感の刺激＝外環境・四季環境＝外受容感覚＝サーブ&リターン(応答関係)＝賢い智慧
2. 愛された育ち＝身体的接触＝自己受容感覚＝サーブ&リターン＝自敬・自尊心(自己肯定感)
3. だきしめ言葉＝情動的接触＝内受容感覚＝アタッチメント＝安心感・信頼感

心とは ふれあいと見まもり いたわりとはげましに支えられ
心とは いつも慈しみあふれるところで やさしさと思いやりが生れ
創られるところなの！

どうぞ皆さま、自分のために 子どもたちのために
思いやりのある穏やかな生活をお過ごし下さい。
心から祈っています。

令和4年 8月 吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 勲

※ 童心会だよりはホームページ上でご覧になれます。